

第2回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境協議会について下記のとおり開催した。

第2回環境協議会では、これまで行ってきた環境調査の詳細な内容と今後の環境調査計画について説明し、各委員から活発なご意見をいただいた。

記

- 1 日 時 平成21年3月24日（火）13：30～15：30
- 2 場 所 最上総合支庁 5階講堂
- 3 出席者 10名（12名中2名欠席）
中島委員長、今井委員、加藤委員、萱場委員、岸委員、小林委員、
柴田委員、高橋委員、原委員、横倉委員
（欠席者；梅田委員、大場委員）
- 4 各委員からの主なご意見
 - ・ 今井委員； 猛禽類13種類のうち、回遊していると思われるものもあり、すべての種類に注意しなければいけないものではない。繁殖している5種類（ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバ、クマタカ）のうち、特にクマタカには注意を要すると思われる。
 - ・ 萱場委員； 濁水や土砂移動に伴う影響について、今後どのような検討と対応を進めていくかを考えていく必要がある。
 - ・ 柴田委員； 地元には、ダムそのものに反対はしないが、大型車が通ることで、石積みに影響が出るため、反対だという人が出ている。
（事務局；個別に対応していきたい。）
 - ・ 原 委員； 藻類については、ステーション毎に優占種を確認しておくことが必要と思われる。
今後の工程表の作成をお願いしたい。
 - ・ 横倉委員； ワタナベカレハは、蛾の研究者がいらないため、情報不足種である。希少種として扱うべきかどうか、議論の必要がある。
ヒメギフチョウは貴重種である。ウスバサイシンの葉に卵を産むが、この植物がこの地域で確認されている。4月下旬頃に調査をしてほしい。

